

ウッドデザイン賞 2018

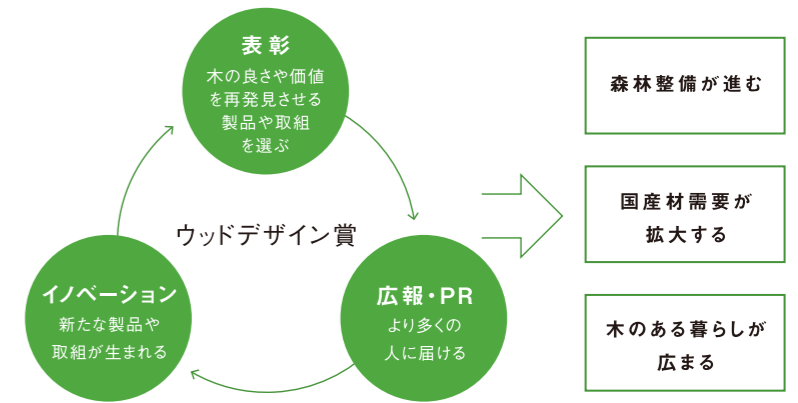
上位受賞作品のご紹介



JAPAN WOOD DESIGN
AWARD 2018

ウッドデザイン賞とは

ウッドデザイン賞は、「木」に関するあらゆるモノ・コトを対象に、暮らしを豊かにする、人を健やかにする、社会を豊かにするという3つの消費者視点から、優れた製品・取組等を表彰するものです。



▲ ウッドデザイン賞2018実施概要

- 主催:ウッドデザイン賞運営事務局((特)活木活木森ネットワーク、(公社)国土緑化推進機構、(株)ユニバーサルデザイン総合研究所)
- 林野庁補助事業
- 募集期間:2018年6月20日(水)~7月31日(火)

● 応募対象分野

① 建築・空間・建材・部材分野	店舗、施設、オフィス、住宅、建材、部材等
② 木製品分野	家具、インテリア、食器、日用品、雑貨、文具、遊具等
③ コミュニケーション分野	ワークショップ、プロモーション、人材育成、ビジネスモデル等
④ 技術・研究分野	技術、研究、試作品等

● 表彰部門

ライフスタイル デザイン部門

木を使って
暮らしの質を
高めているもの

木を使うことで機能性や利便性を高めている、新しい領域で木の活用が提案されている、消費者に木のある豊かな暮らしを提案している、建築、空間、木製品、コミュニケーション、技術・研究など。

ハートフル デザイン部門

木を使って
人の心を豊かにし、
身体を健やかにしているもの

木を使うことで快適性を高めたり、五感や感性に働きかける、リラックス効果や健康増進効果がある、作り手や担い手のストーリー性を伝えている、建築、空間、木製品、コミュニケーション、技術・研究など。

ソーシャル デザイン部門

木を使って
地域や社会を
活性化しているもの

木を使うことで地域や森林の活性化に貢献している、持続可能な森林利用の仕組みを生み出している、木材利用の意味を啓発したり、人材育成をしている、建築、空間、木製品、コミュニケーション、技術・研究など。

● 応募～発表・PRまでの主な流れ

応募受付期間(2018年6月20日~7月31日) ▶ 第一次審査(書類・資料による審査) ▶ 第二次審査(現物・映像を含む審査) ▶ ウッドデザイン賞(入賞)結果通知・発表 10月25日 ▶ 最終審査 ▶ 最優秀賞、優秀賞、奨励賞発表 11月20日 ▶ 表彰式(「エコプロ2018」)12月6日(木) ▶ 展示・セミナー(「エコプロ2018」)12月6日~8日 ▶ ブックレット、展示会等でのPR

● ウッドデザイン賞2018結果

総応募数393点 入賞189点(入賞のうち)最優秀賞1点 優秀賞9点 奨励賞15点 特別賞数点

● 公式ウェブサイト

<https://www.wooddesign.jp/>

ウッドデザイン賞に関する最新のイベント・展示情報や次回開催のお知らせなどを随時、更新しています。最新情報をお届けしますので、メールアドレス登録をお願いします。

● 公式フェイスブック

 ウッドデザイン賞
@wooddesignaward

受賞者作品や審査員メッセージ、各種イベントなどのニュースをタイムリーにお届けします。





審査委員長 赤池 学 プロジェクトデザイナー、科学技術ジャーナリスト。株式会社ユニバーサルデザイン総合研究所所長。地域の資源、技術、人材を活用した数多くのものづくりプロジェクトを指揮する。

ウッドデザイン賞も4回を数え、幅広い分野からの応募に加え作品のレベルは確実に上がっていると感じています。これまでも多様な木材利用の先進例を評価してきましたが、今年ではあえて厳しい視点で審査を行いました。特に重視した点は、「木材を中心に据えた新規性あるビジネスモデルや協創のスキームを形にしているか」「従来の木材利用に留まらない新たな価値やことづくりを創造しているか」「地域の資源や技術、人材を活かしながら、それを地産外消させる展開が見られるか」といったものです。最優秀賞は都市部での大規模木造建築に取り組み、近年注目されるアクティブラーニングへの仕掛けを随所に設けた小学校でした。最近では、大規模施設や幼・保育園や学校、病院などにおける木材利用は広まりを見せつつあり、これまでにない木材の効能・機能を活かした意欲的な製品も登場しています。キーワードは、地域と業種を超えた「協業」。森林を取り巻く法律や制度が広がりを見せるなか、川上と川中、川下をさらにつなぐためにも、ウッドデザイン賞を通じて、その範となる、幅広い分野からの参画と連携に挑戦して欲しいと思います。

★分野長

建築・空間・建材・部材分野



隈 研吾★

建築家、東京大学教授。土地の環境、文化に溶け込む建築を目指し、ヒューマンスケールのやさしく、やわらかなデザインを提案。国内外で木の建築作品が多数。



腰原 幹雄

東京大学生産技術研究所教授。構造の視点からさまざまな材料の可能性を追求。新しい木の可能性について考えるNPO法人team Timberizeを設立、理事長を務める。



鈴木 恵千代

空間デザイナー、一般社団法人日本空間デザイン協会会長。商業施設、ミュージアムなど幅広いデザイン、アートディレクション等を手掛ける。



手塚 由比

建築家、株式会社手塚建築研究所共同代表。雪に埋もれる自然科学館キョロ口や楕円形の屋根で子供が遊ぶふじようちえんなどを手掛け、日本建築学会賞などを受賞。

木製品分野



益田 文和★

インダストリアルデザイナー、株式会社オープンハウス代表。地球環境的要因を基軸とするサステナブルデザインを研究テーマとして、様々な製品デザインを手掛ける。



島村 卓実

プロダクトデザイナー、クルツインク代表。幅広いジャンルでデザインを提案し、各地域振興を目的にしたデザインプロジェクトやワークショップをプロデュース。



高橋 正実

クリエイティブディレクター・デザイナー、MASAMI DESIGN代表。コンセプトワークを得意とし、プロダクト、インテリア、空間など幅広いジャンルで活躍。



矢島 里佳

株式会社和える代表取締役。〇から6歳の伝統ブランドaeruを立ち上げ、日本の伝統を暮らしの中で活かしながら次世代につなぐ様々な事業を展開。

コミュニケーション分野



日比野 克彦★

アーティスト、東京藝術大学美術学部先端芸術表現科教授。舞台美術やパブリックアートなど、多岐にわたる分野で活動中。一般参加者と地域特性を生かしたワークショップも手がける。



戸村 亜紀

クリエイティブディレクター。ロゴデザイン、プロダクト開発など幅広く活躍。環境問題や地域産業復興などを通じて次世代の居場所と出番の創出を目指した取り組みを行う。



古田 秘馬

プロジェクト・デザイナー、株式会社umari代表。数多くの地域プロデューサー・企業ブランディングなどを手がける。海外に日本の食文化を伝えるPeace Kitchenプロジェクトを展開中。



山崎 亮

コミュニティデザイナー、株式会社studio-L代表、東北芸術工科大学教授。まちづくりのワークショップなど地域の課題を地域住民が解決するコミュニティデザインに携わる。

技術・研究分野



伊香賀 俊治★

慶應義塾大学理工学部教授。建築と都市を対象としたサステナブル建築デザイン、ライフサイクルアセスメント、建築効率評価、環境・エネルギーシミュレーションを研究。



相茶 正彦

木材利用・バイオマスコンサルタント、株式会社エス・アール・シー取締役。木質系資源活用コンサルタントとして、各地のプロジェクトのコンサルティング、リサーチを実施。



青木 謙治

東京大学大学院農学生命科学研究科生物材料科学専攻材料・住科学講座准教授。建築物の壁面・床面などの耐力評価を主な研究テーマとして多数の研究成果を発表。



恒次 祐子

東京大学大学院農学生命科学研究科生物材料科学専攻材料・住科学講座准教授。木質居住環境の快適性評価、木材利用による温暖化防止効果の定量的評価などを研究。

受賞後の展開

ウッドデザイン賞の受賞作品は以下の特典、広報が受けられます。

●ウッドデザインマークの使用

ウッドデザイン賞を受賞した作品は、ウッドデザインマークの使用が認められます。

マークを表示することで受賞の成果を訴求することができます。



ウッドデザインマークのデザインについて

日本の豊かな森の恵みを表す三角形に、「WOOD DESIGN」(W)を重ねたイメージ。アンシンメトリー(左右非対称)に連なる造形は、暮らしを豊かに、人を健やかに、地域と社会を活性化する多彩なスケールの木づかいが生まれていく、という意味を込めています。
デザイナー: 則武 弥

●「エコプロ2018」における表彰及び広報

最優秀賞等の表彰、及びウッドデザイン賞の受賞作品の展示を「エコプロ2018」(表彰は2018年12月6日、展示は12月6日～8日・東京ビッグサイト)にて行います。同展では受賞者、審査委員によるプレゼンテーション、交流会なども行います。

●「ウッドデザインストーリー2018(仮)」の発行

ウッドデザイン賞の上位賞や入賞作品の開発ストーリーを収録したブックレットを製作し、受賞者ならびに自治体やメディア、関連業界へ配布します。受賞作品の広報・PRにお使いいただけます。

●展示会等での消費者、小売・流通事業者への訴求

各地域で実施される展示会、交流会等で受賞作品の展示及びPRを行います。

●メディア・流通小売との連携企画の推進

メディアや流通小売業と連携して、ウッドデザイン賞の趣旨を伝えるとともに、受賞作品の掲載・露出・PRを行います。



●ウッドデザイン・サポート連絡会 私たちはウッドデザイン賞を応援しています。

- 全国森林組合連合会
- 一般社団法人 全国木材組合連合会
- 一般財団法人 日本木材総合情報センター
- 一般社団法人 全日本木材市場連盟
- 公益財団法人 日本住宅・木材技術センター
- 森を育む紙製飲料容器普及協議会
- 日本集成材工業協同組合
- 日本合板工業組合連合会
- 一般社団法人 日本フローリング工業会
- 一般社団法人 全国木造住宅機械プレカット協会
- 日本木材防虫工業組合
- 公益社団法人 日本建築士会連合会
- 一般社団法人 日本建材・住宅設備産業協会
- 一般社団法人 日本木造住宅産業協会
- 一般社団法人 JBN

- 一般社団法人 全国中小建築工事業団体連合会
- 公益社団法人 国際観光施設協会
- 一般社団法人 日本オフィス家具協会
- 特定非営利活動法人 芸術と遊び創造協会／東京おもちゃ美術館
- 一般社団法人 日本インテリアコーディネーター協会
- 林業復活・地域創生を推進する国民会議
- 美しい森林づくり全国推進会議
- 一般社団法人 日本森林学会
- 一般社団法人 日本木材学会
- 木材利用システム研究会
- 一般社団法人 全国LVL協会
- 全国天然木化粧合板工業協同組合連合会
- 一般社団法人 木と住まい研究協会
- 公益財団法人 PHOENIX(木材・合板博物館)
- 日本複合・防音床材工業会
- 農林中央金庫

最優秀賞（農林水産大臣賞）

()内の「都道府県」は建築物などの所在地、活動が実施された地域で、一般に流通しているもの・特に該当しないものは主な受賞団体所在地です。



ライフスタイルデザイン部門 建築・空間分野

江東区立有明西学園(東京都)

株式会社竹中工務店(東京都)、江東区(東京都)、株式会社久米設計(東京都)

区内初の小中一貫9年制の公立学校。都市部では実現が困難であった大規模な学校施設の木造化・木質化を行うとともに、豊かな教育環境を児童・生徒に提供し、教職員にも心地よく働きやすい質の高い職場を実現した。古くから木を扱う「木場」の文化を発信するシンボリックな施設でもあり、教室の床や腰壁、現しの柱・梁により木の温もりを感じて学習でき、木を大切に扱う気持ちを見学・生徒にも芽生えさせている。特にアクティブラーニングの実現のために工夫された仕掛けが素晴らしく、木の回廊に焼き印のように刻まれた様々な言葉や記号は積極的な学びを誘発し、多様な樹種を説明付きで張り込んだ円柱はこの国の持つ豊富な樹種とその魅力を伝えている。木の文化の発信と学習環境の向上、地域産業の伝承、感性教育を見事に融合させた質の高い施設づくりに成功している点を高く評価し、最優秀賞に選出した。

優秀賞(林野庁長官賞)



ライフスタイルデザイン部門 建築・空間分野

浦和明の星女子中学・高等学校 カフェテリア棟(埼玉県)

学校法人明の星学園(埼玉県)、清水建設(株)(東京都)

女子中学・高等学校のカフェテリア建替工事。『みんなのイエ』をコンセプトに、卒業生やこれから巣立つ生徒が、ここに「帰ってきた」と思える場所にしたいという思いを受け建設。女性教育の場にふさわしい軽やかで柔らかい空間を、木造在来軸組と構造用面材で構成した木質アーチ架構により実現した。空間の強いインパクトと木の美しい仕上げが、ここで学校生活を送ったことを印象づけてくれるであろう。

奨励賞(審査委員長賞)



ライフスタイルデザイン部門 建築・空間分野

下北の自然な家(青森県)

松浦一級建築設計事務所 松浦良博(青森県)、(有)松浦建設(青森県)

本州最北端下北半島の青森ヒバをふんだんに使用した住宅。青森ヒバに含まれるヒノキチオールによる抗菌効果や豊かな香りによるリラックス効果で、家族がより健康で豊かな生活ができないかと考え計画。暮らしの快適性と心地よさをもたらす空間づくりに成功した。

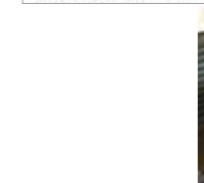


ハートフルデザイン部門 コミュニケーション分野

自由学園男子部 80年の木の学び

学校法人自由学園男子部[中等科・高等科](東京都)

自由学園男子部では、68年前に当時高校生だった先輩たちが埼玉県飯能市の学校林に植えたスギを代々に渡って生徒が山に入り手入れをしてきた。高校2年生が山から伐りだし加工した木材を使って、中学1年生が教室で使うための木製の机と椅子を自分で作り、高校3年の卒業まで6年間使う取り組みを開学以来約80年続けている。生徒たちの「木の学び」を大切に、継続的な取組に好感が持てる。



ライフスタイルデザイン部門 建材・部材分野

表層圧密Gywoodシリーズ

ナイス(株)(神奈川県)

スギなど軟らかいとされる針葉樹の表層部を特に高密度化することで、軽さ、温かさ、衝撃吸収性などのメリットを残したまま、素材の硬さや強度を向上させ、更に一般的な無垢材と比べ形状安定性を高めることに成功した無垢の新素材。内外装材や家具での活用が期待され、人の手に触れるところ、目に見える場所に使うことで心地いい木質空間を創出できる。針葉樹の利用価値を広げる素材である。



ライフスタイルデザイン部門 木製品分野

ひのきかご机

(株)ヒノキワークス(石川県)

リビング学習や塾等で使用する机、主婦の家事スペースの机として活用できる。引き出しがなく、軽量で持ち運びできる頑丈な机である。天板は無垢ヒノキ材で木目が目に優しい。シンプルながら、しっかりとしたつくりで長く愛されるプロダクトと評価できる。奇をてらったところのない良品である。



ソーシャルデザイン部門 建築・空間分野

下川町のトドマツオフィス(北海道)

内海彩建築設計事務所(東京都)、下川町(北海道)、王子木材緑化(株)(東京都)、桜設計集団 佐藤孝浩(東京都)、盛永・金子・三賀経常建設共同企業体(北海道)

トドマツは、北海道内では最大蓄積量があるが、「水食い」に起因する乾燥時のねじれや割れが多く、製材の利用が進んでいない。木材供給者と設計者が協働しトドマツに適した乾燥法の研究開発に取組み、土台を除く全構造材と内部のフローリングや壁仕上げにトドマツを用いた建築を実現。地域材の新規活用をもたらしている。



ライフスタイルデザイン部門 技術・研究分野

改質リグニンを利用した3Dプリンター 用基材の開発と造形試作への展開

ネオマテリア(株)(京都府)、京都工芸繊維大学(京都府)

木材由来の新素材である改質リグニンと生分解性材料を組み合わせた環境調和型の3Dプリンター用基材を開発し、デザインや試作用基材として利用できる新たな素材を提案。これにより、木質バイオマスの新たなマテリアル利用の需要創出が可能となる。次世代ものづくりの技術として注目される3Dプリンタに木の素材活用を組み合わせた、「異業種協業」の見事な事例である。



ライフスタイルデザイン部門 木製品分野

MOKULOCK・KODOMOシリーズ・OTONAシリーズ

(株)ニューテックシンセイ(山形県)

普段の生活で木に触れることが少なくなった人達へ、木のぬくもりを感じ、リラックス、リフレッシュ出来るように、さらに自然の存在を身近に感じてもらえるようにと開発された木製ブロック。主に6種類の山形県産広葉樹を使用。無垢材にこだわり、木製品のぬくもりを大切にしている。大人向けはインテリアとしても活用でき、シンプルゆえの対象の幅広さがよい。



ソーシャルデザイン部門 建築・空間分野

南三陸町役場庁舎／歌津総合支所・歌津公民館(宮城県)

(株)久米設計+ピークスタジオ一級建築士事務所(東京都)、南三陸町(宮城県)、銭高・山庄特定建設工事共同企業体(宮城県)、南三陸森林管理協議会(宮城県)、南三陸森林組合(宮城県)

東日本大震災の津波被害を受け流失した役場庁舎・総合支所の2施設の復興計画。「マチドマ」とよぶ共通のコンセプトをもつ木質空間とし、町有林の間伐材(FSC認証材)を活用した温もりある心地のよい居場所となるようデザインされている。復興のシンボルに地域材の活用を読み込んだメッセージ性の高い取組。



ハートフルデザイン部門 建築・空間分野

安永寺本堂新築工事(埼玉県)

大光山安永寺(埼玉県)、福山弘構造デザイン(神奈川県)、菊池建設(株)(神奈川県)

「寺院本来の姿に立ち返って、様々な人の拠り所となる場としての寺院を今一度提供したい」という若い住職の意識に鑑みて、寺院の建築様式性を見直し、原初的なかたちとしての東屋のように屋根のみが浮いたシンプルな造形を、CLT大版による3次元面トラス架構と垂木の組合せを用いて表現した寺社建築。伝統建築と現代技術の高度な融合の見本例である。



ハートフルデザイン部門 建材・部材分野

「ささくれ」抑制機能木製床 ササクレス

空知単板工業(株)(北海道)

体育館や武道場等の屋内運動施設にて使用される木製床。近年体育館では、木製床の「ささくれ」が発端となり、複合要因による木製床破壊後、破片で競技者が怪我に至る事故が発生している。独自の「特殊樹脂塗膜」により、事故の発端となりうる「ささくれ」発生を大幅に抑制する機能を有し、安全性を高め運動に集中できる環境づくりをもたらす。



ライフスタイルデザイン部門 コミュニケーション分野

大川TATEGUMI

大川建具事業協同組合 大川TATEGUMI(福岡県)、(一財)大川インテリア振興センター(福岡県)、ハコと場をつくる(株)SAITO(福岡県)

木工産業が集積する大川建具事業協同組合の有志が取り組む次代の「建具」を考えるプロジェクト。職人と建築家が直接つながるチームを編成。全4つのチームがそれぞれの叡智を集めて、建築家が「描いた形」を職人が「モノ」にし、プロトタイプとして仕上げ、展示会でも発表。デザイン発想によるものづくりの流れを建具の世界から発信した。



ソーシャルデザイン部門 コミュニケーション分野

新木場海床プロジェクト

新木場海床プロジェクト(以下、東京都)、(株)榎戸材木店、新木場相原 あいはらの木、瀧口木材(株)、(株)ZNEM、光風舎一級建築士事務所

東京江東区、新木場地区は木材の流通基地として運用され、海には丸太が浮き、世界の木材が集まってきたが、いまでは海から丸太が消え木材業者も減少している。海を含めた新木場に新たな木のある風景をつくるプロジェクトで、水上での木製アートや木製楽器で木の音を楽しむイベント等を展開。木の文化の発信とそれを現代に楽しむ発想力が素晴らしい。



ライフスタイルデザイン部門 技術・研究分野

住宅の長期使用を実現する木質材料の接着耐久性評価に関する研究

積水ハウス(株)(大阪府)、国立大学法人静岡大学(静岡県)

木造建築物の安全性に関して大きく影響を与える要因である接着要素に対し、その構造強度を損なう恐れがある劣化に関する評価を行う研究。木材使用量が多い集成材に対し研究を行い成果を得、さらに近年JISに加えられた構造用MDF・PBIに対し、釘接合時の耐久性の評価を行った。新たな技術、製品の市場投入が増加するなか、こうした地に足の着いた実験・実証は大変に重要である。



ソーシャルデザイン部門 コミュニケーション分野

「南房総千倉CLT収納庫」プロジェクト

弁護士法人匠総合法律事務所(東京都)、岐阜県立森林文化アカデミー(岐阜県)

CLT構造の建物を実際に建築して得た知識、経験、ノウハウを建物の現地見学などを通じて施工業者・設計者・行政等に広く伝え、CLTの普及及び日本の林業再生や地域工務店の活性化、木造建築物の担い手育成を目的とした実験的プロジェクト。体験型でCLTの可能性をさまざまな関係者へ広める、啓発的意味を持つ重要な取組。



ハートフルデザイン部門 木製品分野

odai

宮川森林組合(三重県)

広葉樹の食品やアロマ雑貨等への活用を提案する商品群。スギ、ヒノキだけでなく地域固有の樹種から生まれる香りは、日本人の食や生活に溶け込み、都市の生活を豊かにし、大台町の森づくりを伝えるツールである。また、多様な樹種の枝葉等を原料とすることで、木材としての収穫期まで安定的な収入源となる。森林組合が新たなビジネスモデルを生み出し提案するとともに、デザインを通じて地域材の良さを広めようとする先進的な取組。



ハートフルデザイン部門 木製品分野

a piece of forest

(株)ワイス・ワイス(東京都)、(有)橋本夕紀夫デザインスタジオ(東京都)、(株)吉崎工務店(島根県)、(有)池田材木店(島根県)

主に住宅やホテルの寝室や書斎・応接室で使用する灯り。繊細な灯りに照らし出される木の表情が、木の持つ存在感や命を感じさせ、ゆっくりとした時間が生まれ、心を落ち着かせる。デザインに組手や仕口を取り入れた職人技をシンプルに伝える形で、夜は抽象的な光のアート、昼はインテリアに飾るオブジェとして機能している。



ソーシャルデザイン部門 コミュニケーション分野

徳島県の体験型施設「TurnTable(ターンテーブル)」

(株)フォレストバンク(徳島県)、株式会社Turn Table(徳島県)、株式会社ゲンボク(徳島県)

徳島の食材を用いたレストラン・バル、宿泊施設、マルシェ、交流スペースの4つの機能を併せ持つ「体験型施設」。建物には徳島県産の石材、木材を使用し、「モノではなくヒトからの情報発信へ」をテーマに、あえて徳島の看板は出さず、食や宿泊の体験を通じて徳島の魅力に共感してもらうことを目指した。地域の食や観光、文化と木の良さを高度なデザインで組み合わせた良質な取組。



ソーシャルデザイン部門 建築・空間分野

いわきCLT復興公営住宅(福島県)

福島県土木建築住宅課、ふくしまCLT木造建築研究会(木あみ)設計共同企業体、(株)白井設計、(株)邑建築事務所(上記、福島県)、(株)日本システム設計(東京都)、会津土建(株)・(株)渡辺組・菅野建設(株)・山木工業(株)特定建設工事共同企業体(福島県)

CLTパネル工法では国内最大級の共同住宅。一部の居室仕上げをCLTあらわしとし、木の持つ癒し効果や調湿性も活かした高齢者仕様対応可能な計画とした。CLTの高い剛性を活かした奥行きのある広いテラス、外部にもあらわして木の温かみを感じる景観形成を持つ。CLT活用のスタンダードモデルとして高く評価できる。



ハートフルデザイン部門 木製品分野

飾りコマ

株式会社つたや物産(山形県)、株式会社コロシ(山形県)

オーナメントの機能を持たせたデザイン独楽。遊んでいる時間以外の方が長い独楽に台座を組み合わせることで、飾って楽しむことができる。5cm程の大きさなので、窓辺や書棚、食器棚などの身近なスペースに飾ることができる。昔ながらの逆立ち独楽やひねり独楽等を使用し、伝統と現在をうまくミックスさせた。



ソーシャルデザイン部門 コミュニケーション分野

全国47都道府県から森林認証材の供給体制確立

ナイス(株)(神奈川県)

全国47都道府県における行政担当者や素材生産業者などに働きかけ、森林認証材の取得を促進し、全ての都道府県から森林認証材の調達ルートを確認。この事により、全ての都道府県において地域材を活用した住宅、非住宅物件への認証材の供給が可能となった。また原木の調達～加工までなるべく地域内で行うことにより省力化を実現するとともに、全国の特長ある認証材を活用した大型物件などにも対応できる。新国立競技場における各地域の木の利用に貢献した社会提案性の高い取組である。



ハートフルデザイン部門 木製品分野

wood butterfly

ぶるべら社(東京都)

蝶番がない世界初の木製のバインダー。バインダー自体が蝶番の役目をしており、一見不思議でユニークな形状を持つ。木の手触りを楽しみ、使うたびに手になじみ、長く使って頂くうちに味わいが出るようなニスを使わず無垢のまま仕上げている。持った際の質感も良く、長く使いたくなる日用品である。



ソーシャルデザイン部門 コミュニケーション分野

デジタルファブリケーションによる自律分散型生産ネットワーク

VUILD(株)(神奈川県)

「持続可能な自律分散型の林業」への転換を図るべく、デジタル加工機Shopybotを全国に普及し、デジタル技術を扱うことのできる人材を育成。共有して加工販売できる設計雛形を構築し、ネットワーク型のビジネスモデル構築を行っている。これにより地域の木材を用い、最小限の輸送距離で、高品質で付加価値の高い製品を自分たちの手でつくることのできる。地域ごとの森林資源活用と技術習得、人材育成を同時に満たす事例として新規性がある。



ハートフルデザイン部門 木製品分野

kibori ブローチ

芦野和恵(山形県)、山形県工業技術センター(山形県)

国指定伝統的工芸品山形仏壇彫刻の材料、モチーフを活かして山形仏壇彫刻師芦野和恵が製作したブローチ。彫刻に使用されるシナ材は白く美しくしかも軽いため、薄手の衣類につけても垂れない。ターゲットの若い女性等、今まで仏壇に興味を持っていなかった消費者へのアピールに成功した。

ウッドデザイン賞2018結果

- 総応募数 393点
- 受賞数 189点
- 最優秀賞 1点 ● 優秀賞 9点 ● 奨励賞 15点
- 特別賞 数点

Webサイトより全ての受賞作品についてご覧いただけます。

<http://www.wooddesign.jp/>

